

福州市友好都市提携 45 周年記念訪問 視察報告書

長崎市議会議員 福澤 照充

1. 訪問概要

- ・ 期間：令和 6 年 11 月 10 日～14 日（4 泊 5 日）
- ・ 目的：長崎市・福州市友好都市提携 45 周年に伴う公式訪問および水産・上下水道・歴史文化施設等の視察
- ・ 同行者：鈴木長崎市長、岩永市議会議長ほか市議会議員 5 名及び関係者

2. 視察内容

【第 1 日目：11 月 10 日】

空路にて上海浦東空港を経由して、福州長楽国際空港へ。

20 年ぶりの海外渡航であり、初訪中。上海空港に着陸する時に見えた洋上風力発電の風車の数に驚く。20 本以上はあり、中国のエネルギー開発の熱量を感じる。

上海空港での入国審査では指紋登録など IT 化が進んでおり、中国の技術導入の速さを実感した。福州市自来水有限公司の出迎えを受け、市内へ移動。

夜には福州市外事弁公室主催の夕食会が開催され、両市の交流の歴史を振り返りながら懇談を行った。宿舎は今年開業のホリデイイン福州であった。



【第 2 日目：11 月 11 日】

① 福州市海洋・漁業技術センター

- ・ 長崎市との水産交流協議書の調印式を実施。
- ・ コロナ禍の前はリモート調印であったが、今回は対面での署名と握手が実現。
- ・ 両市は研修生の相互派遣を続け、45 年の交流の成果が安定的に積み重なっている。

センター内視察では、45 年前に長崎から送られたアワビ種苗が改良され、福

州市は中国国内最大のアワビ生産地に成長している事例を確認。またコンブの品種改良も中国全体の約 50%を占めるまでに発展しており、長崎市との協力が産業育成に寄与していることに誇りを感じた。

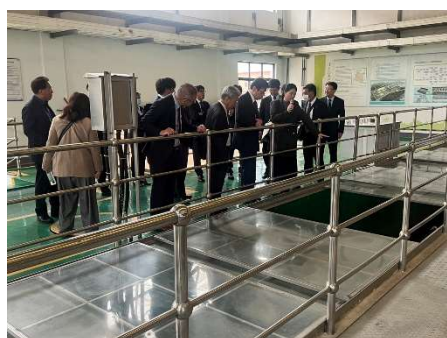
海水品質の常時モニタリングシステムが導入されており、観測データは自動的にデータセンターへ連携され分析される。「人の力を借りないで」データ収集を行うことで漁業従事者の安全確保にも貢献している。観測データから、沿岸水温は過去の 25～26℃ から 28～29℃ へと徐々に上昇しており、「赤塩」(赤潮)の発生や海流の変化についても懸念が示されていた。中国は IT 大国だが、海水のデータ収集も IT が浸透している印象。本市においても赤潮被害なども近年頻発しており、IT の活用は進めるべきだと感じた。



② 国潮博物館

福州鑑賞用金魚の栽培技術、養殖基地を見学した。福州市は中国でも金魚の養殖が最も盛んで、規模も大きく 500 年以上の歴史がある。また、即売もされており、動画配信ができるスペースがあり、活用されているとのことである。かつてインドの総理大臣への誕生日プレゼントとして、この福州の金魚が贈られたことがあり、パンダ外交ではないが、国際外交の場で金魚が果たした役割を知ることができ興味深かった。

③ 洋里下水処理場



処理能力 60 万 m³の巨大施設を視察。長崎市最大の処理場 (7 万 m³) と比較しても規模は桁違いであり、最新鋭設備と集中制御システムにより高効率な運転が行われていた。

水道技術交流は 34 年目、延べ 44 名の長崎市職員が派遣され、着実な技術深化が進んでいる。

④ 飛鳳山浄水場

1 日 30 万 m³ を処理する大規模浄水場を初視察。長崎市の手熊浄水場の約 4 倍である。水の節約を図るために日本から導入した泥の排除技術が導入されている。この施設では、新規の活性炭を購入する際に、納入業者が使用済みの活性炭を回収するシステムを構築しており、長崎市などで課題となっている使用済み活性炭の処分問題に対する解決策のヒントになるのではと思われた。



⑤ 福州市水質検測有限公司

国に格上げされた水質検査機関で、407 項目に及ぶ検査に対応。最新鋭の分析装置を多数保有しており、多岐にわたる項目の精密な検査が可能。高度な分析能力により、顧客からの水質に関する問い合わせや依頼に対し、最短 1 週間で詳細な検査結果を報告できる体制が整っている。

【第 3 日目：11 月 12 日】

① 歴史的景観地区の視察

- ・ 煙台山歴史的景観地区：19 世紀の開港期に各国領事館が置かれた租界地で、洋館が多い。長崎の南山手地区との共通性を強く感じた。
- ・ 上下杭歴史文化町：中洋折衷の建築が特徴で、福州の歴史文化を象徴する地区である。テレビや動画配信などのロケスポットとしても人気とのことである。
- ・ 三坊七巷：明・清時代の街並みが保存され、伝統工芸や文化展示が充実。明の創設者である朱元璋に慮って門に朱色が使えなかったことから、色で建物の年代を判断することや、琉球との交易が盛んで明・清代の琉球貿易の商人の邸宅があったことなど興味深い歴史を学べた。

② 福州市長表敬訪問

呉賢徳市長、鈴木長崎市長、岩永市議会議長と意見交換。

- ・ 空海が福州を経由して長安に渡った歴史や華僑 460 万人のうち多数が福建省出身で、長崎にも深いつながりがあることなど、両市の歴史的・文化的関係の深さが語られた。



【第4日目：11月13日】

① 午前中福清市の黄檗山万福寺（重要文化財）を訪問。

日本でなじみの隠元禅師が46歳の時住職となり、当時中国においても高名な僧として、その名声は日本に届いていたと記されている。共産主義国であるが、寺院の修繕や建築費等は華僑などの寄付で賄っているとのこと驚く。

② 午後、上海市に移動し、上海国際貿易センターで鈴木市長による長崎鮮魚のトップセールスに同行した。

- ・ 相手：海産物輸入商社「ワンプレッシュ」王代表
- ・ 中国ではマグロの人气が高く、輸入停止前は長崎鮮魚が広く流通していた。
- ・ 現在、北海道ホタテの一部輸入再開など動きはあるものの、政情により再開時期は不透明。
- ・ 相手方は2024年からは長崎鮮魚を香港、台湾、シンガポール、マレーシア、韓国など、アジアの他地域への輸出に注力しうまくいっており、アメリカや欧州市場への輸出も努力したいと表明。
- ・ 輸入停止が続く状況下でも、将来的に中国本土への輸出が再開された際には、長崎産水産物が再び市場で最も高いシェアを占めることになると再開後の販路拡大に大きな期待が示された。



③ トップセールス終了後、市内の商業エリア（南京路など）を視察した。

3. 総括

今回の福州市訪問は、政治環境の不安定さから直前まで日程調整が難航したが、福州市および関係各位の心温まる歓迎により、無事に全行程を終了できた。45年に及ぶ友好都市交流は、水産・上下水道といった具体的な技術協力と人的往来を通じて、一層深みを増していることを肌で認識できた。訪問先の福州市、上海市はいずれも活気に溢れ、目覚ましい発展を遂げており、中国都市の巨大なスケールと、AIやITなどの新しい技術を導入する迅速さを目の当たりにした。

初の中国訪問であったが、現地で出会う人々は皆、親切に対応してくださり、報道で得ていた情報と実際の現地の様子の違いを確認できた。政治状況が厳しい時期だからこそ、都市間交流や市民レベルの交流が果たす意義は計り知れない。

中国と長崎市は長い交流の歴史があり、重要な隣人である。今後も相互理解をさらに深め、友好関係の継続に努めるとともに、議員として国際情勢の冷静な分析と中国理解の見識を深めることに、一層取り組んでまいりたい。

以 上